

# モンゴル国からの活動報告 3

## 助産師を取り巻く状況・妊産褥婦さんが大切にしていること

池本めぐみ

国立国際医療研究センター 国際医療協力局 助産師

### はじめに

私は、独立行政法人国際協力機構（Japan International Cooperation Agency：JICA）の技術協力プロジェクト「医師及び看護師の卒後研修強化プロジェクト」の長期専門家として国立国際医療研究センター国際医療協力局から派遣されています。2021年6月にモンゴル政府から助産師の卒後研修の強化への支援要請を受け、モンゴル国のカウンターパートとともに助産師に関する調査や聞き取りを行い、具体的な活動を検討しています。

今回は、助産師に関する調査や聞き取った内容からモンゴル国の助産師を取り巻く状況、妊産褥婦さんが大切にしていること等についてご報告させていただきます。

### 1. モンゴル国の助産師を取り巻く状況

モンゴル国における母子保健のデータは、モンゴル保健開発センター（Center for Health Development, 以下CHD）と世界保健機構西太平洋地域事務局が出版した『Health indicator 2020』によると、1990年に妊産婦死亡率199（出生10万対）、乳児死亡率63.4（出生千対）、5歳以下死亡率87.5（出生千対）です。これらのデータは2020年に妊産婦死亡率23.0（出生10万対）、乳児死亡率11.5（出生千対）、5歳以下死亡率14.0（出生千対）と改善しています。改善への大きな転換は、2000年あたりからソム家庭保健センター（村の一次医療機関）での出産を取りやめ、2次医療機関以上での分娩が導入されるようになったことがひとつの要因として考えられます。ハイリスク等の妊婦は、出産の2週間程前から分娩施設の近くにあるマタニティーレストハウスに滞在、分娩しています。2020年は、分娩件数

75,694件のうち99.7%の分娩が施設分娩でした。また、77.8%の妊婦が6回以上の妊婦健診を受診しました（Health indicator 2020）。さらにモンゴル政府は、持続可能な開発プログラム2030において2025年に妊産婦死亡率20（出生10万対）、2030年に妊産婦死亡率15（出生10万対）を目指しています。

助産師を取り巻く状況は、1993年以降、常に大きな変化と挑戦の中にあります。助産師の育成の停止や業務の停止、大学の学部でダイレクトエントリーとしての助産師の育成の再開、職務記述書の改良、修士課程の開始、博士課程の設置認可などがあります。また、助産師は、保健法により免許が与えられるようになり、職務が保健大臣令の「助産師のモデル職務記述書の改良について（A/216,2017）」で定められています。助産師の職務記述書は、「助産師のモデル職務記述書の改良について」をもとに各医療機関における業務に合わせて作成され、各個人の助産師が職務記述書にサインし、それに沿って働いています。

これらのように国としての体制作りや卒前教育の改善が進んでいます。今後は、これらの体制で取り決められたことが実施され、卒後研修の体制の強化と実現により、現場の助産師の能力を確実に向上させることが求められています。

### 2. 妊産褥婦さんが大切にしていることや食べ物

ウランバートル市内の医療機関、地方の医療機関や家庭保健センター等の聞き取りや訪問の際に「モンゴル国の文化」で妊産褥婦さんが大切にしていることを見聞きました。その中から5つをご紹介します。

#### (1) スーテーツァイ

塩味のミルクティーです。妊産褥婦さんだけでなく、国民が普段からよく飲んでます。病院内の妊

産褥婦さんのベッドサイドにもスーテーツァイを入れているポットをよく見かけました。



(写真1) スーテーツァイ

#### (2) 肉入りスープ

分娩後1時間くらいで褥婦さんは、家族が作って持参した肉入りのスープを食べていました。普段から「肉をたくさん食べないと冬の寒さに耐えられない」「モンゴルの人は、肉をよく食べているから体が強い」とよく聞くので、産後の疲労回復などに「肉入りスープ」が最適だと考えられているのでしょう。

#### (3) 新生児ぐるぐる巻き・

新生児と褥婦さんの頭の保温（帽子や頭巾）

病棟では、新生児に帽子をかぶせ、分厚い布でぐるぐる巻きにしているのを見かけました。助産師は、褥婦さんに必ずぐるぐる巻きにしなくてもいいと説明しているようですが、ほとんどの方がぐるぐる巻きにしていました。モンゴルは、年間平均気温-0.4度で「世界で最も寒い首都」と言われるくらいですので、新生児の保温を大切にしてきたからなのかと想像しています。

また、新生児と褥婦さんは、頭に帽子や頭巾（褥婦さんは、給食のおばちゃんがしている感じでおしゃれな布を巻いている）をかぶっています。「頭から風が入るとよくないから」みんなかぶるそうです。褥婦さんが新生児と同じ布の帽子をかぶっておられる方もいました。新生児の誕生を楽しみに準備されたことが手に取るように分かったので、「赤ちゃんとおそろいの帽子、とても素敵ですね」と声をかけました。にっこり笑われた褥婦さんの表情からは、母としての喜びがあふれていました。

#### (4) ゲルの中の絵が描かれた分娩室

ある病院の分娩室の壁には、ゲルの中の絵が描かれていました。ゲルで暮らしている妊婦さんができるだけリラックスして分娩できるように描かれたそうです。



(写真2) 分娩室

#### (5) モンゴルのフェルトで作られている飾り

別の病院では、授乳室に子どもたちの成長を願ってモンゴルのフェルトで作られている飾りが飾られていました。諸外国と同様に、褥婦さんがメンタルヘルスの問題を抱えることがあるので院内でも授乳室など環境面も配慮されているそうです。



(写真3) 子どもの成長を願った飾りが飾られている授乳室

## おわりに

新型コロナウイルス感染症の対応で大変お忙しい中、助産師の卒後研修の強化のためにお時間をいただいた皆様、すべての関係者の方に深く感謝申し上げます。

#### 【参考文献】

Center for Health Development, Health indicators, 2020.